普及活動情勢報告（令和５年９月分）

高吾農業改良普及所

イチゴの生産安定に向けて　　～佐川地区で園巡りおよび勉強会を開催～

JA高知県佐川支所苺部会が８月31日に生産者の育苗床の巡回および勉強会を開催し、生産者13名が参加しました。

今回は３戸の育苗床を巡回し、各生産者が各々の苗と比較しながら、育苗期の生育状況について、意見を交換しました。

普及所からは、勉強会で定植後の栽培管理や気象環境に応じた施肥管理などについて情報提供を行いました。生産者からは「今年は気温が高いので、花芽分化が遅れる可能性がある。追肥やビニル被覆を慎重に行う必要がある。」といった意見が聞かれました。

普及所は、これからも個別巡回指導を行い、イチゴの生産安定を図っていきます。

仁淀川町地域おこし協力隊インターシップ　　～仁淀川町で農業＋α～

仁淀川町が９月７日から９月21日まで、茶を主体に関係機関と連携し、地域おこし協力隊インターシップを行い、4名が参加しました。

高吾農業改良普及所では、インターンシップの活動として13日午後に茶の有機栽培に向けた実証ほ場で施肥と耕起をしてもらいました。当日は小雨が降ったりやんだりと不安定な天気でしたが、和気あいあいと作業をしました。また、15日にはユズ栽培について、20日には就農するために必要な「こと」や「もの」学習会を行いました。

普及所は、これからも関係機関と連携し、仁淀川町の担い手確保の取組を支援していきます。

新高梨の適期収穫に向けて　　～新高梨の査定会を開催～

JA高知県佐川支所果樹部会、越知町梨生産組合、黒岩梨出荷組合の各組合が９月12日から14日にかけて、新高梨の査定会を開催し、生産者37名が参加しました。

普及所からは、今年の生育状況や積算温度をもとにした収穫時期の目安、梨の火傷病について説明を行いました。また、その場で果実分析を行い、果実の大きさや糖度、みつ症の発生程度などを確認しました。

生産者からは「果皮が青いのにみつ症が発生している」などの声が聞かれ、見た目の判断に比べて内部の熟度が進んでいたことに驚く声が多数聞かれました。

普及所は、これからも個別巡回や果実分析を通して、梨の適期収穫に向けた情報提供を行い、梨の生産安定を図っていきます。